

## 醤油造り培った清流と緑今も 如来時かいいい(竜野市)

著者	大西 正曹
雑誌名	日本経済新聞 まちかど羅針盤
発行年	1998-04-14
権利	(C)日本経済新聞社 このデータは、日本経済新聞社の許諾を得て作成しており、無断での複写・転載は禁じられています。
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10112/7277">http://hdl.handle.net/10112/7277</a>

# まちかと羅針盤

98. 4. 14 日経新聞

## ● 醤油造り培った清流と緑今も

如来寺かいわい（竜野市）

姫路市の西に位置する竜野市は古くから播磨と備前、出雲の往来が交差する要衝。竜野城の城下町としても栄え、市内の至る所にその面影を残している。原生林に包まれた緑、揖保川の清流、古い町並みの織りなす美しさに、「播磨の小京都」と称賛されるほどの山紫水明の地である。

「私の故郷は日本の良い所を詰め合わせた、幕の内井当のような町」とは竜野出身のある映画監督の言葉だ。

この豊かな自然環境が「赤とんぼ」の作詞者、三本露風、旧制一高寮歌「春爛漫」「嗚呼玉杯に」を作った矢野勘治、明治の哲学者、三本清など多くの文化人や教養人を輩出する素地となった。

市の中心には中国山脈の水を集め、ゆっくりと南下する揖保川が流れている。鉄分の少ない清らかな水、流域の肥よくな播磨平野に育った小麦、山間部でとれる良質な大豆、西隣の赤穂産の塩、そして瀬戸内海に面したおだやかな気候が、竜野の醤油（しょうゆ）醸造業をはぐくんだ。

当地特産のそうめん「揖保乃糸」とも相性が良く、二つの名産品が互いに助け合って地場産業を形成した。「うすくち竜野醤油資料館」のある如来寺近辺には白壁の醤油蔵が集まっている。

竜野藩主、脇坂侯の保護育成策もあって、十六世紀には野田、銚子、小豆島と並ぶ産地だった。現在も市内の七社と近隣の七社で関西圏最大の生産量を誇り、全国シェアでも七％弱を占める。

藩主は京都所司代を務め、京都の文化や料理に造けいが深かったという。この縁で竜野醤油は京料理などに用いられる淡口を特徴とする。

歌人、吉井勇はその味わいを「ほのかなる人のなさけに似るものか竜野醤油のうすくちの味」と詠んでいる。

（関西大学教授大西正曹）